

眼瞼下垂切開法とは

眼瞼下垂とは、まぶたを開く筋肉の力が弱まり十分に目が開かなくなる状態のことです。眼瞼下垂切開法とは、局所麻酔後、眼瞼挙筋を瞼板に縫い寄せることで、まぶたの開きを良くする手術です。

眼瞼下垂切開法後の状態・ケアについて

- ・当日は長時間の入浴はなるべく避け、軽いシャワー程度にしてください。術後1週間程度は血流が良くなることでの腫れを防ぐため、熱いお風呂を避けていただくことをおすすめします。
 - ・当日は手術部位に触れたり、濡らさないようご注意ください。術後24時間経過後はまぶた周辺も含め洗顔フォームを使用して洗顔可能です。
 - ・1週間後に来院していただき、抜糸を行います。
 - ・アイメイクは1週間後、抜糸をしてから可能です。ただし、最初のうちはまぶた周辺に触れる際はなるべく優しく、できる限り負担をかけないようにしてください。
 - ・強い腫れは、2週間程度で引いていきます。その後も時間の経過と共に腫れは引いていき、二重の場も狭まっています。完全に腫れが引き完成までには平均して半年ほどかかります。
 - ・内出血については、個人差がありますが数週間前後で消失します。
 - ・飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、1週間ほどお控えください。
 - ・運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は1週間、激しい運動は当面の間お控えください。
 - ・術後1週間後の抜糸完了まではコンタクトレンズの装着はお控えください。術後しばらくは目の周りに傷があるため、まぶたに違和感があったり、目がゴロゴロすると感じる場合があります。コンタクトレンズは、違和感がなくなってからの使用をおすすめいたします。
- ※経過観察をする目的で施術部位の写真を撮らせていただきます。撮影させていただいた写真に関しては、厳重に保管し患者様との経過観察以外で無断使用することはありませんのでご安心ください。
- ※左右差、腫れなど、気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。
- 1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。
- ※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

眼瞼下垂切開法で生じる可能性のあるリスクについて

【内出血】

目の周辺に内出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。

【左右差】

手術直後より左右差が出ることがありますが、殆どの場合時間を置くことで差がなくなっていくます。ダウンタイム中は左右差を強く感じる場合があります。術後1ヶ月は様子を見ていただき、それ以上経っても左右差が気になるようでしたらご相談ください。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。概ね1ヶ月で腫れは引いていきます。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強く出ることがあります。場合により、抗生剤の内服や抜糸等の外科的処置が必要となります。

【肥厚性瘢痕(ケロイド)】

ケロイド体質の方は傷が治る過程で皮膚が盛り上がってしまう場合があります。その場合、別途瘢痕に対する治療が必要になります。

【傷跡】

時間経過とともに目立たなくなりますが、まったくなくなることはありません。

【目のゴロツキ、充血、結膜炎】

術後、目がゴロゴロするような違和感や充血などが出る場合があります。目の違和感が続くようであればご連絡ください。

【兎眼(とがん)】

まぶたが開きすぎて目が閉じられない状態を兔眼と言います。時間経過により改善することもあります、再手術が必要になる場合もあります。

【再発】

ごくまれに再発することがあります。

【ドライアイ】

手術後、目が乾きやすくなることがあります。

【眼瞼痙攣】

手術後に痙攣するようになることがあります。

眼瞼下垂切開法をお受けいただけない方

妊娠中の方、親権者の同意がない未成年の方、まぶたに怪我や炎症がある方、局所麻酔剤にアレルギーをお持ちの方は手術を受けられません。